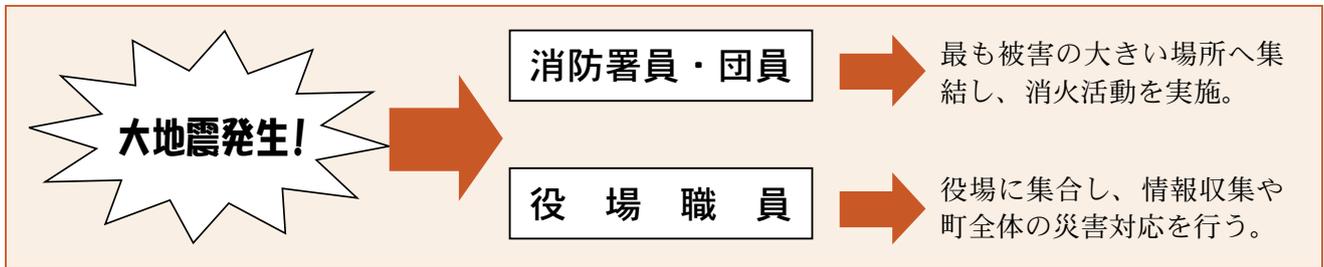


大地震が発生した時、町は関係機関と協力し、全力を挙げて防災活動を行います。災害発生直後の人命救助や初期の消火活動は、住民の協力が大きな役割を果たすこととなり、地域ぐるみで取り組むことで有効な対策をとることができます。

大地震発生時の役場・消防署・消防団員の動き



自分たちの地域は、地域に残った人たちで守らなければならない!

これらのことから、大災害時の被害を最小限に抑えるため、全国各地で「自主防災組織」発足が急がれています。

自主防災組織をつくるには……

組織の編成、特に役割分担は重要ですが、最初は災害時に逃げ遅れがないよう、ご近所での連絡（声かけ）網づくりから始めませんか？

その後、消火訓練や炊出訓練などを行った後で、消火班・炊出班・避難誘導班・情報班など必要と思われる班を作り、班それぞれのリーダー（班長）を決定し、みなさんそれぞれが班に所属をしていくとスムーズに役割分担ができます。



防災活動は多岐にわたりますので、できるところから少しずつ取り組みましょう。区や組の行事と兼ねて、自主防災組織の行事や普及啓発活動を行うと、取り組みやすさ、予算の面からも有効です。

例) 地区の行事で集まる際に避難訓練を行う。

地区の行事終了後、消火訓練を行う。

草刈などで集まった際に、昼食用に炊出訓練を行う。

組集会の際に、心肺蘇生法・止血法などの講習会を受講する。 など